



学校だより

No.552

令和 5年 9月29日
練馬区立田柄第二小学校
校長 岩井 一 雄

教育目標 : 元気な子ども ・ 考える子ども ・ 思いやる子ども

よいぶどうとは

校長 岩井一雄

青果売り場の棚に、色とりどりのぶどうが並んでいます。そのぶどうを見ていて、ぶどうやワインについて詳しい知人が話してくれたことを思い出しました。

わたくしは長らく、さんさんと陽光を浴び、肥よくな土地の栄養をたっぷりもらったぶどうが良いワインになると思っていました。ところが、その知人は そうではないと言うのです。果物として食用にするぶどうは確かにぽってりと実った方がおいしいが、もともとフランスでワイン用のぶどうは、もっと粗野で たけだけしい、むしろ野生のようなものが良い製品になるということです。過保護に成長してたっぷり実をつけたぶどうのエキスを発酵させても、キリッとした良いワインになるとは限らない。その品種の成長圏ぎりぎりのところで育て、ぶどうが厳しい環境の中で、自ら必死に生きていこうとする力を引き出さなければならないということです。土地も砂利混じりで水はけのよいところが、ぶどうを育てる適地なのだそうです。

テレビでフランスの、そのようなぶどう畑が映されていました。見ると、山の斜面で石がごろごろしていて、気温も低いのか、ぶどうの木が大人の腰丈ほどしかないのです。まだ苗木の段階かと映ったほどです。もちろん、日本のような立派なぶどう棚など作ってありません。ぶどうは形がふぞろいで、ひと房にそれほど多くの実がついているようには見えませんでした。しかし、ぶどうの木は、生きるために自分で栄養分をとろうとして、しっかりと根を下ろし、いろいろなミネラルを吸収して、それを実に凝縮させているように見えました。

ワインを作る技術は年々進歩し、ぶどうの品種改良も進められていることでしょう。しかし、ある意味で「やる気」を見せたぶどうそのものが、ワインの価値を決めている面は否定できないようです。

もちろんストレスがかかりすぎたら、ぶどうは枯れてしまいます。しかし、厳しい環境の中で生きようとする努力の結果がエキスの中に込められているように思えます。

わたくしたちはストレスを全て悪者のように考えがちです。子供たちにも、友達関係の中で生ずるストレス、学習にかかわるストレス、家庭のできごとにかかわるストレスなど、様々なストレスがあるかもしれません。それを理解し、子供たちが心安らかに過ごせるようにしていくのが大人の務めでもあります。しかし、大人になり、社会人になり、ストレスを感じないで生活することは、まず考えられません。その時、このぶどうの話思い出してもらえたら、と思います。自分の置かれた環境の中で、無理はせず、しかし時には耐え、意欲を出し、さらにやる気を見せた時、自分に魅力を見出すことができると思うのです。

10月の生活目標「天気の良い日は元気に外遊びをしよう。」

朝晩は少し涼しくなってきましたが、日中は日差しが降り注ぎ、これから校庭で遊ぶにはとてもよい陽気になってきます。太陽の光をいっぱい浴びることで、心身共に健康になれます。手洗い・うがいなどの指導をしながら、楽しく外遊びができるよう声をかけていきます。